# 鎌倉時代

名前

問1　源頼朝が、対立した実の弟を捕らえることを名目として、国ごとに守護、荘園や公領ごとに地頭を設置することを朝廷に認めさせた際、その捕縛の対象となった人物と、軍事や御家人の統制を担うために設置された組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）

1. 源義経と侍所
2. 源義仲と問注所
3. 源義仲と侍所
4. 源義経と政所

問2　曹洞宗の開祖である道元は、場所を選ばず「ひたすら座禅をすることである」と説きました。このような鎌倉新仏教の特徴と、普及の背景について説明した文として最も適切なものはどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 伝統を重視し、奈良時代からの古い教義をさらに複雑化したことで支持を得た。
2. 生活の場や時間を問わずに行える修行法を提示し、民衆の生活に寄り添った。
3. 修行には膨大な費用と時間が必要であったため、富裕な商人の間でのみ流行した。
4. 祈祷によって病気を治すといった、貴族向けの現世利益のみを追求した。

問3　鎌倉時代に宋から伝えられた、座禅を組む修行によって自らの力で悟りを開こうとする仏教の宗派を何というか、次の中から名称を選びなさい。（2023年 徳島県公立入試 類似）

1. 日蓮宗
2. 浄土真宗
3. 浄土宗
4. 禅宗

問4　1185年、源頼朝は対立した弟の源義経を捕らえることを名目に、朝廷から守護と地頭を設置する権限を認めさせました。これら守護と地頭が配置された場所と役割の説明として、最も適切なものはどれですか。（2024年 山形県公立入試 類似）

1. 守護は朝廷のあった京都に置かれて貴族を監視し、地頭は東国の有力な御家人の領地にのみ限定して置かれた。
2. 守護は荘園ごとに置かれて裁判の役割を担い、地頭は国ごとに置かれて行政全般の管理を行った。
3. 守護は国ごとに置かれて軍事・警察の役割を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。
4. 守護と地頭はともに九州沿岸に置かれ、外国からの侵略に備えるための軍事拠点としての役割を担った。

問5　東大寺南大門にある金剛力士像は、運慶や快慶らによって制作された。それまでの時代の優美で繊細な表現とは対照的に、この像のように力強く写実的な作風が生まれた背景として、最も適切な説明はどれか。（2026年 茨城県公立入試 類似）

1. 浄土信仰の普及により、極楽浄土の優雅な様子を視覚化する必要があったため
2. 唐の文化の影響を強く受け、理想化された静かな美しさが追求されたため。
3. 政治の実権を握った武士の、質実剛健で力強い気風が反映されたため。
4. 貴族を中心とした国風文化が円熟し、より複雑な感情表現が求められたため。

問6　12世紀末から14世紀前半にかけての日本の状況について述べた文として、時代背景が正しく説明されているものはどれか。（2016年 秋田県公立入試 類似）

1. 公家を中心とした政治から、土地の仲介などを通じて武士が実権を握る政権へと移行した。
2. 平城京を中心に、大陸の文化や仏教の影響を強く受けた貴族文化が栄えた。
3. 士農工商の身分制度が確立され、200年以上にわたる鎖国政策が実施された。
4. 鉄砲の伝来やキリスト教の布教により、戦国大名による全国統一の動きが加速した。

問7　鎌倉時代、東大寺南大門に安置された木造彫刻は、筋肉隆々で写実的な表現がなされており、当時の武士の気風を反映しているとされています。運慶や快慶らが制作した、この力強い彫刻の名称として正しいものはどれですか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）

1. 平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像
2. 弥勒菩薩半跏思惟像
3. 金剛力士像
4. 阿弥陀如来像

問8　鎌倉時代の武家社会を支えた「御恩」と「奉公」という制度について、その仕組みを説明した文として正しいものはどれですか。将軍と御家人の双方向の関係性に注目して選びなさい。（2017年 岩手県公立入試 類似）

1. 御家人が将軍に絶対的な忠誠を誓う儀式を行うことで、将軍から裁判における全面的な勝訴を約束される関係であった。
2. 将軍が御家人の子弟を教育する場を提供し、その見返りとして御家人が幕府の運営資金をすべて負担する仕組みであった。
3. 将軍が御家人の領地の支配を保証する代わりに、御家人は軍役などの義務を負うという、土地を介した契約関係であった。
4. 将軍がすべての土地を国有化し、御家人の能力に応じて毎年一定の俸禄を支給する給与体系であった。

問9　源頼朝が幕府を開いた鎌倉は、防御に適した地形を利用して都市が築かれました。三方を山に囲まれ、南が海に面したこの土地において、外部との交通路として山を切り開いて設けられた通路を何と呼びますか。（2022年 山口県公立入試 類似）

1. 本陣
2. 関所
3. 切通し
4. 宿場

問10　鎌倉時代の歴史的出来事をまとめた資料において、後鳥羽上皇が隠岐へ流された直後に記述される、幕府による政治体制の変化として適切なものはどれか。（2020年 徳島県公立入試 類似）

1. 朝廷の監視や京都の警備を目的として、六波羅探題を設置した
2. 裁判の基準を明確にするため、御成敗式目を制定した
3. 御家人の生活を救うため、徳政令を出して借金を帳消しにした
4. 元軍の侵攻に備えるため、九州に鎮西探題を設置した

問11　一二三二年に制定された御成敗式目の目的や性質に関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2022年 高知県公立入試 類似）

1. 鎌倉時代初期の源頼朝が、朝廷から征夷大将軍に任命されるための条件を明文化する。
2. 有力な家臣の合議制を廃止し、執権がすべての実権を握る独裁的な政治体制を確立する。
3. 地頭などの御家人による土地争いを公平に裁く基準を定め、幕府の統治を安定させる。
4. 北条時宗が二度の元寇に際し、九州の防備を固めるために武士の動員体制を法制化する。

問12　鎌倉時代後半、元寇の防衛に功績のあった御家人が生活に困窮し、幕府への不満を強めた経緯を説明した記述として、最も適切なものはどれですか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 幕府が全国の武士に土地を寄進するよう命じたため、自立した経営ができなくなった。
2. 元の軍隊が九州の大部分を占領し、御家人の所領が直接的に奪われた。
3. 御成敗式目によって土地の相続が厳しく制限され、家を維持することが困難になった。
4. 自費で軍役を果たしたが、恩賞としての領地が与えられなかったため、幕府との主従関係が揺らいだ。

問13　鎌倉時代、源平の争乱によって焼失した東大寺の再建において、僧侶の重源（ちょうげん）らが取り入れた建築様式に関する説明として正しいものを選びなさい。（2023年 滋賀県公立入試 類似）

1. 元（モンゴル）の建築技術を導入し、石造りの基盤の上に大規模な回廊を持つ形式で再建された。
2. 当時の中国の王朝である宋の様式を取り入れ、大仏様（だいぶつよう）と呼ばれる力強い構造で再建された。
3. 平安時代の貴族の住宅に見られる寝殿造の様式を寺院建築に応用し、池と調和する形で再建された。
4. 奈良時代の唐招提寺などに見られる唐の様式を忠実に再現し、対称性を重視した優美な姿で再建された。

# 答え合わせ・解説

| | | |
|---|---|---|
| 問1 | 答え 1<br>源義経と侍所 | 源頼朝は、平氏を滅ぼした後に自分と対立した弟の源義経を捕らえるという口実で、1185年に守護・地頭を設置する権利を朝廷に認めさせました。これにより、幕府の支配力が全国に及ぶことになりました。また、鎌倉には軍事や御家人の統制を司る「侍所」のほか、一般政務を扱う「政所（当初は公文所）」、訴訟や裁判を扱う「問注所」が設置され、幕府の統治機構が整えられました。 |
| 問2 | 答え 2<br>生活の場や時間を問わずに行える修行法を提示し、民衆の生活に寄り添った。 | 道元が説いた「只管打坐（しかんたざ）」のように、特定の場所や難しい学問を必要とせず、ただ一つの行いに打ち込むという姿勢は、鎌倉新仏教に共通する特徴です。旧来の仏教が厳しい戒律や多額の寄付を求めたのに対し、日々の生活で忙しい民衆でも実践できる形式をとったことが、武士や庶民への急速な普及に繋がりました。 |
| 問3 | 答え 4<br>禅宗 | 鎌倉時代には、社会の混乱の中で民衆や武士を救済するための新しい仏教（鎌倉新仏教）が誕生しました。その中でも、自力で悟りに到達することを目指すこの教えは、栄西が伝えた臨済宗や、道元が伝えた曹洞宗を合わせた総称として用いられます。 |
| 問4 | 答え 3<br>守護は国ごとに置かれて軍事・警察の役割を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。 | 源頼朝は、平氏打倒の功労者でありながら対立することとなった弟の源義経を捜索・逮捕することを口実として、朝廷に守護・地頭の設置を認めさせました。守護は諸国（国単位）に一人ずつ置かれ、国内の武士の統制や軍事・警察の権利を行使しました。地頭は全国の荘園や公領（国衙領）ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収、警察の補助を担いました。これにより幕府の支配力が全国へ及ぶ基礎が築かれました。 |
| 問5 | 答え 3<br>政治の実権を握った武士の、質実剛健で力強い気風が反映されたため。 | 鎌倉時代の文化は、新しく歴史の表舞台に現れた武士の好みが強く反映されています。平安時代の貴族が好んだ優雅さや繊細さとは異なり、現実的でたくましい力強さを尊ぶ「武士の気風」が、運慶らの手がけた写実的な彫刻作品の流行につながりました。 |
| 問6 | 答え 1<br>公家を中心とした政治から、土地の仲介などを通じて武士が実権を握る政権へと移行した。 | 鎌倉時代は平安時代と室町時代の間に位置する武家政権の時代です。1200年前後からの約140年間は、それまでの貴族中心の政治から、将軍と御家人の主従関係に基づく武士中心の社会へと大きく変化した時期にあたります。 |
| 問7 | 答え 3<br>金剛力士像 | 鎌倉時代には、平氏による南都焼討で焼失した東大寺の再建が行われました。その際、運慶や快慶を中心とする慶派の仏師たちが、武士の好む力強く写実的なスタイルで東大寺南大門の金剛力士像を完成させました。選択肢にある阿弥陀如来像は、平安時代後期の優美な貴族文化（国風文化）において多く作られたものです。 |
| 問8 | 答え 3<br>将軍が御家人の領地の支配を保証する代わりに、御家人は軍役などの義務を負うという、土地を介した契約関係であった。 | 鎌倉時代の主従関係は、単なる精神的な忠誠心だけでなく、土地の支配を媒介とした「契約」のような性質を持っていました。将軍は御家人の最大の関心事である「領地の保証」という利益（御恩）を与え、その見返りとして御家人は「いざ鎌倉」という際の軍役や、京都・鎌倉での警備といった負担（奉公）を負いました。この双方向のやり取りによって幕府の軍事力と統治体制が維持されていました。 |
| 問9 | 答え 3<br>切通し | 鎌倉は北・東・西の三方を険しい山に囲まれ、南側が相模湾に面しているという、防御に適した「天然の要塞」のような地形をしていました。この閉ざされた地形において、軍事的な防衛力を維持しながら物資の運搬や人の往来を可能にするため、山の一部を削って造られた狭い道が「切通し」です。鎌倉七口と呼ばれる代表的な通路などが知られています。 |
| 問10 | 答え 1<br>朝廷の監視や京都の警備を目的として、六波羅探題を設置した | 承久の乱の戦後処理として、幕府は首謀者である後鳥羽上皇を隠岐に配流し、仲恭天皇を廃位するなど、朝廷に対して厳しい態度をとった。同時に、京都の警備と朝廷の監視、さらには西国の御家人たちを直接統制するために六波羅探題を設置し、幕府の支配権を西日本まで大きく広げることとなった。 |
| 問11 | 答え 3<br>地頭などの御家人による土地争いを公平に裁く基準を定め、幕府の統治を安定させる。 | 御成敗式目は、執権政治を確立させた北条泰時が、武士の間に広がっていた土地をめぐる争いを解決するために作成したものです。これにより、幕府の裁判が明確な法に基づいたものになり、御家人からの信頼を高めることにつながりました。この法律はあくまで幕府の支配下にある武士や土地に適用されるもので、当初は朝廷の支配地には適用されませんでしたが、のちの武家政治における法の基本（よりどころ）となりました。 |
| 問12 | 答え 4<br>自費で軍役を果たしたが、恩賞としての領地が与えられなかったため、幕府との主従関係が揺らいだ。 | 鎌倉幕府の基盤は、将軍が御家人の所領を保証する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係にありました。しかし、元寇においては御家人が重い負担を負って奉公したにもかかわらず、幕府が十分な「御恩（恩賞）」を与えることができなかったため、この互恵的な関係が崩壊しました。これが御家人の幕府離れを招き、幕府滅亡への遠因となりました。 |
| 問13 | 答え 2<br>当時の中国の王朝である宋の様式を取り入れ、大仏様（だいぶつよう）と呼ばれる力強い構造で再建された。 | 鎌倉時代は武士が台頭した時代であり、文化の面でも力強さや写実性が重んじられました。東大寺南大門の再建にあたっては、僧侶の重源が中国（宋）の進んだ建築技術を導入しました。これは「大仏様」と呼ばれ、太い柱や梁を組み合わせた、簡素ながらも質実剛健な構造が特徴です。選択肢にある寝殿造は平安時代の貴族の住宅様式、元は鎌倉時代後半に日本に侵攻してきた王朝であり、この時代の寺院再建の主流ではありません。 |